立教セカンドステージ大学のこと

2012 山本　和孝

５０歳以上を対象とした「立教セカンドステージ大学」に一期生として入学したことがある。入学者数は８０名程度。講師陣は立教大学の教授に加え、立花隆氏、上野千鶴子氏、等。

私のゼミ指導教授の千石氏は「白鯨」の翻訳で世に出た人だったが美術にも造詣か深い人だった。２か月に一回は美術展見学が授業の代わりになった。専門家の説明付きの見学は非常に贅沢なものとなった。ある時千石教授の授業で「ウエストサイド・ストーリー」が上映された。この物語の背景に数多くの現代アートが使用されていた。すると隣の生徒が「あの娘ダンスが得意じゃないね。違う曲でも同じダンスしか踊っていない。」と指摘した。たぶんナタリーウッドだと思うが指摘した女性は世界的に有名なダンスの大会に出場したこともあるバレリーナ―だった。

立花氏の授業は「現代史の中の自分史」生徒が毎週数枚の原稿を提出し、立花氏がこれに講評をするという形で進められた。以下はその時の原稿の一部である。

①　就職活動の年

一九六八年、世の中は混沌とした中でも、経済成長をより確かに実感した年といえる。アメリカでは

四月　黒人運動指導者、キング牧師暗殺。六月　ロバート・ケネディ暗殺。

パリでは五月　ベトナム和平交渉が始まる。国内ではこの年の重大ニュースのトップに「東大紛争などの一連の学園紛争の勃発（ぼっぱつ）」があげられ、十位には「全学連を中心とする新宿駅デモに騒乱罪適用」となっている。

日本のＧＮＰ（国民総生産）は一九六八年にフランスを抜いて世界第４位、

六七年はイギリスを抜いて第３位、この年、六八年には西ドイツを抜いて第２位になる。

②　取り調べ室のような面接試験

四月、大学四年　就職活動の開始である。現在のようにインターネットもなく

会社情報と言えば学生同志の情報交換、川崎教授の講義の中で知った数社の会社名だけがたよりの心細いものだった。

五月　㈱東光ストア（現在の東急ストア）の面接があった。会場の奥正面に会社側面接官５名が並び、受験生は反対側に５名がすわる。面接開始である。

「それでは一番の方から　当社への志望動機を述べてください」

「ハイ、スーパーマーケットは成長期でその中で　東急グーループの一員である御社は安定して成長する会社ということで受験いたしました。」

トップバッターの学生の模範解答。文句なしである。２番手、３番手の受験生も同様の模範解答が続く。（よしこの線で自分も回答してみようと考えていた）その時、３番手の受験生に大声で質問が飛んできた。

「そうじゃない！安定した会社なんか世の中に　千社も二千社もあるじゃないか。
そのなかで、何故当社を選んだのかそれを聞いているんだ。」
面接官の中の真ん中に座った、一番怖そうなオジサンのいらだったような声。
三番手の学生は絶句したまま答えられない。ふかーい、くらーい沈黙が続く。

三番手、撃沈（げきちん）された模様。

「次の方　志望動機を述べてください」態勢を立て直す時間も与えられず、私の出番がきた。（模範解答はマズイんだよなー）
「えー　大学で川崎進一教授のスーパーマーケット論の講義を受けてスーパーに興味を持ちました」
オジサン又もや発言
「それは流通業に対する志望動機だネ。私が聞いているのは当社への志望動機だよ」
この辺で完全に頭は真っ白、「えーと　えーと　京王線の桜上水に住んでいまして、
渋谷はとても近いので・・・・」
「君は家の近所で働きたいのか？他に動機はないのかネ」
ここで他の面接官から「落ち着いて自分の思っていることをゆっくり話しなさい」と
助け舟のようなコメントが出た。しかしすでにこちらとしては大混乱しており、考えがまとまらない。
「えー　先輩が大手のダイエーや西友より東光ストアの方が入り易いんじゃないかと言っていたので」支離滅裂（しりめつれつ）の回答。

「君は当社が二流だから入り易いと思って受けたのかネ」
しどろもどろの受験生とけんか腰の面接官。まるで警察の取り調べ室のような雰囲気のまま、私の面接は終わった。

後でわかるのだが会社側の質問の主（ぬし）は山本宗二社長だった。山本宗二氏は伊勢丹の基礎を創り、「商売の神様」と呼ばれた人で、東急グループの総帥五島昇が
三顧の礼を持ってグループへ迎えいれた名経営者であった。当時は東急百貨店の副社長と東光ストアの社長を兼務していた。
面接終了後、五人の受験生は控え室に戻って
会話を交わす。「あれはイジメだよね」「そうそう」「あんな質問にキチンと答えられる奴なんかいないんじゃない」「たぶんいないネ」「でも俺達落ちたかもね」
「そうね　次　探そうよ」落ちこぼれ五人組解散。
一週間後　合格通知が届く。間違いかと思い　確認の電話を入れたが本当に受かったらしい。当時の東光ストアは拡大路線をとり会社として初めて大卒を大量に採用するタイミングだった。その他大勢組の一員として合格したらしい。　法政大学の就職指導課は一

社に合格したら、他の会社は受験しないように指導していたので　私の就職活動はこの一社で終了した。最初で最後の就職活動体験である。